

令和2年度インターネット上の人権侵害の解消推進事業

シンポジウム講演会（要旨）

講師：李信恵（リ・シネ）氏

ヘイトスピーチの定義とは、差別発言であったり差別を扇動する言葉であったりしますが、文脈にもよります。

例えば、私は自分のことを名乗るとき、「朝鮮人です」、「在日朝鮮人です」と名乗ります。なぜかという、「朝鮮」という言葉は「朝の鮮やかな国」という意味があり、私の好きな言葉だからです。

ですが「朝鮮」という言葉は、時には差別用語にもなったりします。私が自称して「私は朝鮮人です」と言う場合と、「こら朝鮮人、お前朝鮮人やろ、国へ帰れ」と言われたとき、その「朝鮮」という言葉が、悪意を持ってぶつけられたときには差別用語になってしまいます。

そのような差別用語は、インターネットができてすぐくらいから、よく見かけられました。最初は、在日朝鮮人に対してよりも部落差別の方がやや多かったように思っています。インターネットに掲載された掲示板が開設されて以降、2002年のワールドカップ日韓共催、朝鮮民主主義人民共和国による拉致問題の発覚から、在日朝鮮人に対するヘイトスピーチは勢いを増しました。

インターネットの普及に伴って、公衆トイレに落書きされていたものが市民権を持つようになり、それが路上に飛び出してきて、ヘイトデモと呼ばれるようになったのは、2005年から2006年ぐらいと言われていました。

また、ソーシャルネットワークの発達で、もともとは個人で差別発言などを書き込んだりしていた人たちが繋がるようになってきました。また、そこでのやりとりが、差別を肯定し、差別を育てる土壌にもなりました。

路上でのヘイトスピーチとインターネット上のヘイトスピーチに対して、どのように対処すればよいかと考え、私は二つの裁判を起こし、勝訴することができました。

ヘイトスピーチ解消法（※本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）が2016年に制定されましたが、私が裁判を起こした当時はそういう法律もなく、インターネット上では、在日朝鮮人やマイノリティへのヘイトスピーチが溢れていました。そこで、一番公平なところで、差別はいけないということを裁いてほしい、ちゃんと認定して許さないということを示してほしいということで、裁判を起こしました。

まとめサイトとの裁判では、なぜこういうところを相手に裁判するのか、周囲の人には、なかなか理解してもらえませんでした。裁判をする中で、インターネット上のまとめサイトがどれだけ悪質か、どれだけ影響が強いものかということをおぼろげにわかってもらえ、いい判決をいただいたことがとても嬉しかったです。

今の若い人にとって、インターネットは、日常、普段使うものであって、新聞やテレビ、

ラジオを聞くよりも、ニュースはインターネットで見ることが多いと思います。まとめサイトのように短く3行ぐらいで、物事をわかりやすくまとめたサイトを利用することは、悪いことではないと思いますが、まとめサイトの中に差別的な表現が溢れていて、若い人がそのような表現ばかりを目にすれば、マイノリティの子どもであってもマジョリティであっても、その人たちのためにもならないと考え、大人としてできることの一つとして裁判を起こしました。

私は、差別問題取材したり、原稿を書いたりしていますが、最近は、裁判の傍聴に行くことがとても多いです。私自身の裁判はほとんど終わりましたが、今も差別問題に関する裁判はたくさん行われています。

私が裁判をした理由は、自分が裁判をできる立場であったからです。例えば、朝鮮人を殺しにきました、と言っても、誰を殺すのかを特定できなければ裁判を行うことはできません。私は名指しをされたので、原告として裁判を行うことができました。

マイノリティの方々は生きていて日常でも差別を受けたり、生きていてだけでカウンターをしているというか、精一杯生きていくはずなのに、日常の闘いに加えて、さらに裁判で闘うというのは、そういう社会自体がおかしいのではないかと思っています。闘わなくていい人が闘わずに済み、闘ってきた人が闘わなくてよくなる社会を作るために、一緒にやっていきたいなと思っています。

コロナのような災害であるとか、色々な大きな社会問題が起こった時に一番負担がかかるのが社会的な弱者だと思うんです。学生の皆さんも、コロナ禍で、アルバイトなどで大変な状況にあると思いますけど、そういう社会を何とか変えていくことができるように、皆さんで分かり合ったり、つながりあったりして、力をあわせていけたらなと思っています。

一人一人の力は小さくても、つながれば、それが凄く大きな力になると思います。私がやっていることも小さな歯車だと思いますが、小さな歯車が大きな歯車を動かすと思うんです。

ヘイトスピーチや外国人、マイノリティや女性を取り巻く様々な問題があると思いますが、人の話を聞いて、他の差別を知ることによって自分の差別が確認できたり、また、新しい発見や新しい行動につながったりすると思いますので、これからは皆さんとつながって、若い人の力をもらいながら、私もできることを頑張っていけたらいいなと思っています。